

区分	NO.	応募団体・グループ名称	事業名	事業の内容(計画)		事業実績
				<目的>	<内容>	
教育に資する取組	1	殺処分削減のために知識と愛護精神で活動する組織(ORCK)	殺処分ゼロに向けての茨城モデル構築事業 動物愛護の関係機関、関係者の連携でゼロ事業の効果を体感できるツールの開発	ORCKが開発したARG(アニマルレスキューゲーム)は、ルールに沿ってプレーするだけで、動物保護に関する一定の知識や現状の理解を可能にする、体験型ゲームである。プレイヤーの行動によりリアルタイムに展開が変化するインタラクティブ性も備えていて、プレイヤーはチームでコミュニケーションをとりながらゲームを進ませる。動物保護活動の経験者や未経験者を含むすべての対象者(プレイヤー)に、保護の大切さやそもそも協力して行う保護活動への理解や興味を持たせ、茨城県が目指す犬猫殺処分ゼロを達成することを旨とする。 また、現在各県で行われている教育に資するプログラムでは、子供達に動物の殺処分が行われている事実を知らせ、そのうえで殺処分をゼロにするために、グループディスカッションなどを行っているが、ARGを使う事で、保護活動の必要性やその方法などについて、より具体的に理解でき、問題点の引きだしや自らが考えて行動出来る人材の育成に繋がれると考えている。	ゲームは、問題解決型を適用したワークショップの開催によって行うが、多様な考え方や経験と想像力を活かし、希望に満ちた動物との共存を実現する事を目指す。また、ゲーム自体も重ねて行う事により、様々な仕様がより具体的な内容に成長していく事も期待出来る。 近年の多発する災害への対策として、まずは自身の安全を確保する事と同行避難などのペットに関する防災の基本も含める。災害が発生した時の動物保護活動を考えるために、ワークショップに災害対応の要素も追加する。 昨年度、新型コロナウイルスの感染拡大防止策を考慮して開催したワークショップは、オンラインと対面のハイブリッド開催を試みたが、そこで得られた現行ARGの問題点を修正するとともに、今後もオンラインでの開催も活用するため、オンライン仕様を想定する。 ゲームの終盤では、各チーム単位の解決策を発表して貰い、他のチームとの比較をする事で、より深い考察を得られる事を目標としている。そのため、本来、1グループは5人～6人で、同時に5グループくらいの開催が望ましいが、新型コロナウイルスの感染拡大防止策のため、学校でのワークショップはオンラインとなった場合、ネット環境も含めて、1グループでの開催を想定している。 また、昨年まで実行できなかった、既に開催されている小中学校生を対象にした「動物ふれあい教室」や「いのちの教室」と併せて、将来動物保護活動を担う世代への啓発活動として、大学生にもARGの体験対象とする。 上記目的のため、学童向けに動物保護活動の現状や意義を説明する資料を整備する。間違い探しや遊び要素を取り入れたクイズの作成も検討要素とする。 現在の属性は猫に限定した仕様であり、対象を犬に広げ「犬版ARG」を作成するために、保護活動経験者や犬の飼い主へのインタビューも開始する。インタビューは、1対1で対面し、質問を重ねて、行動の理由や感情といった、心理的側面を深掘出来るデブスインタビュー方式で行う。	複数年にわたる活動制限により、前期はワークショップの開催が出来ず、実質的なフィードバックが得られなかったが、後期に入りコロナ禍も状況の回復の兆しが見られたため、オンライン開催から、対面でのワークショップ開催に切り替えて、準備した。 保護活動の経験者を対象にしたワークショップでは、ARGを充実させるための意見を収集出来て、次年度への活動に期待している。一番の対象年齢である小中学校でのワークショップ開催を目指し、市の環境保全課とも打ち合わせを続けている。 年度後半には新型コロナウイルスの感染拡大防止策が緩和される見込みとなったため、開発当初の想定どおり、開催を想定したゲーム内容やカード記載内容の見直しを行った。また複数グループでのワークショップ開催の準備作業としてロケーションシート4枚を作成するとともに、ケースを含めたセット内容を確定した。 ゲームのセット内容について、ワークショップを行う度に、部品は必要か不要かを検討し、追加・変更・改定を繰り返した。現在でも未だ更新中である。 その他として、小中学校生を対象にしたARG-WSを行うため、つくば市役所、つくば市内の小中学校、インターナショナルスクール等とミーティングを行った。子供達に実施させるため、学童向けの仕様変更を検討した。緩やかなワークショップへのアプローチのため、間違い探しや遊び要素を取り入れたクイズを作成した。 現在の属性は猫に限定した仕様であり、対象を犬に広げるために、主に犬の保護活動経験者にもARGを体験してもらった。ゲーム体験後に、デブスインタビュー方式で意見聴取を行い、将来「犬版ARG」を作成するための知見を蓄積している。
その他の取組	2	NPO法人 動物愛護を考える茨城県民ネットワーク	譲渡困難犬を譲渡する取り組み	一口に保護犬と言っても、たとえば子犬は病気を持っておらず人馴れも速いため、通常2か月未満で譲渡できる。しかし、人馴れしていない成犬、老犬、障害のある犬といった譲渡困難犬は、譲渡の見込みが無いということで、これまでは殺処分の対象となっていた。従って、殺処分ゼロを目指すには、これらの「譲渡困難犬」を何とかしなくてはならない。 本事業の目的は、これらの譲渡困難犬をセンターから引き出し、なんとか譲渡する道筋をつけることである。特に人馴れしていない保護犬や噛み癖のある保護犬は、逸走や咬傷事故の可能性が高く、そのままでは譲渡は難しいため、トレーニングの必要がある。	1. 茨城県動物指導センター(以下、センター)から従来殺処分となっていた引き取り手の無い保護成犬を引き出し、CAPINシェルターに收容する。今年度は百頭以上を目標とする。 2. まず人馴れしていない保護犬については、CAPINシェルターにおいてベテランのボランティアが、毎日の散歩や世話を通じて人間との信頼関係を構築する。これに加えて、人馴れしていない成犬の馴らしについて長い経験を持つドッグトレーナーを招いてトレーニングを行う。今年度は月1回程度を予定している。 3. 老犬や障害のある犬は、譲渡先が見つかりにくい。しかし、一方で、老犬や障害のある犬は激しく動かないという”利点”もある。この利点を生かして、たとえば年配の里親さん等を見つけることが可能なはずである。そこで、県内で広く里親を探すために、現在は主につくば周辺で開催している月1回の譲渡会に加えて、SNSを利用した里親募集を通じて、県内で広く里親を募集する。これにより、潜在的な里親の発掘を目指す。	今年度は、 1. 茨城県動物指導センターから従来殺処分となっていた引き取り手の無い保護成犬を中心に引き出した。 2. 一般に公開して人慣れしていない犬のトレーニング教室を合計3回実施した。 3. 譲渡会を毎月1回定期開催した。
	3	Team.ホーリーキャット	殺処분을減らす為のTNR活動	殺処분을減らす為に有効なTNR活動を実施し、社会問題化している飼い主のいない猫や多頭崩壊猫の不妊手術は不可欠であります。	毎月40～50頭のTNRを実施しています。	殺処분을減らす為、不幸な猫を増やさない為にTNRは一番の対応策です。今日、多頭崩壊や、地域猫の数が多く、どうしても捕獲器数が足りません。TNR活動推進の為、捕獲器を追加購入させて頂きました。
	4	NPO法人動物の愛護と福祉と共生社会を考える茨城県犬猫共存推進會	野良猫の不妊去勢手術の推進	阿見町では地域猫活動の枠外的な形(個人宅敷地内で野良猫に餌を与える。人にわからないようにして置き餌をしていく。など)で餌を与えているケースもあり、多くの場合年々猫が増えていき困った状況になっている。野良猫の不妊手術についての知識と情報を広める事で問題解決の糸口となる事、野良猫達の不妊手術について誰もが当たり前に行うようになることを目的とする。	チラシ、ポスターを使った啓発の実施をし、関心のある方に対して、初めは餌のあげ方や捕獲なども含め協力、啓発を対面で行い、1人でも行えるよう考え方ややり方を覚えてもらう。	予め、野良猫の手術を行っている獣医師、地域猫活動を行っている住民、個人で餌やりをしている住民等から聴き取りを実施。地域猫の推進啓発ポスターやチラシについて、より効果的な内容となるよう検討した。内容を検討していたポスター・チラシを本事業により作成し、動物病院やイベントなど人目に触れる場所に配布した他、関係各所に送付し、地域猫活動の推進を図った。
	1	守谷市動物愛護協議会	守谷市内犬猫支援事業	1 動物愛護に関する啓発等の取組 飼い主に捨てられた犬・猫などの不幸な動物の現状を知り、その解決方法を生徒自身が考えることを通じて動物を飼うことの責任の重さを学び、命を大切にすることを育む。 2 市役所から譲渡された犬猫の繁殖制限に対する取組 市役所に飼い主不明として收容され、譲渡およびサポーター(保護先)へ引き渡された犬猫の繁殖制限を確実に実施させ、また、サポーター保護時の手術費用負担を軽減する。 3 市内で保護された負傷・衰弱猫の医療費に関する取組 守谷市内の負傷・衰弱猫を保護・治療してくれる市民の金銭負担を軽減する。 4 市役所の犬収容環境の改善に対する取組 守谷市役所の犬収容環境を改善する。	1 動物愛護に関する啓発等の取組 市内小・中学校対象に「命の授業」の開催。茨城県の殺処分の現状、殺処分ゼロを目指す取り組み、TNR活動等を紹介する。 2 市役所から譲渡された犬猫の繁殖制限に対する取組 市役所から譲渡された犬・子猫、および、收容期限7日を超え里親サポーターに保護された犬猫の不妊去勢手術費用の一部を助成(オス5,000円、メス10,000円)する。 3 市内で保護された負傷・衰弱猫の医療費に関する取組 飼い主不明の負傷衰弱猫の診察・治療に対して、市民が高額医療費を負担した場合に、医療費の一部を助成する。(4万円以上で1万円助成、8万円以上で2万円助成) 市役所收容犬猫の診察・治療を、市役所の依頼を受けて市内動物病院が請け負った場合、医療費の一部をお支払する。(1頭につき上限1万円) 4 市役所の犬収容環境の改善に対する取組 現在の犬収容場所は、屋外の屋根付き駐車場内の捕獲器であり、暑さ寒さ対策が万全ではない。保温性の高い犬小屋の設置、快適に過ごせるスペースの確保等、市役所と相談しながら改善に努める。 環境改善がスムーズに進まない場合を考慮し、收容期限内7日間を自宅等で預かることのできる市民に、里親サポーターと同じ保護費用助成(1～15日間:2,500円)を行う。	1 動物愛護に関する啓発等の取組 市内小・中学校対象に「命の授業」の開催は、コロナ感染予防のため中止とした。 2 市役所から譲渡された犬猫の繁殖制限に対する取組 市役所から譲渡された犬・子猫、および、收容期限7日を超え里親サポーターに保護された犬猫の不妊去勢手術費用の一部を助成(オス5,000円、メス10,000円)した。 合計35頭(猫32頭、犬3頭)の申請があった。合計の助成金額は、285,000円(オス13頭×5,000円、メス22頭×10,000円)であった。 35頭中14頭(オス5頭、メス9頭。115,000円)は、令和3年度の譲渡猫であった。・令和4年度に譲渡した頭数は、猫36頭、犬4頭。サポーター保護中の犬1頭(メス)。そのうち申請のあった頭数は、猫18頭(オス7、メス11)、犬3頭(オス1、メス2)。未申請は、猫18頭(メス9、オス7、不明2)、犬1頭(メス)、保護中の犬1頭(メス)であり、令和5年度へ持ち越し(155,000～165,000円)となる。 3 市内で保護された負傷・衰弱猫の医療費に関する取組 飼い主不明の負傷衰弱猫の診察・治療に対して、市民が高額医療費を負担した場合に、医療費の一部を助成した(4万円以上で1万円助成、8万円以上で2万円助成)。助成額は、5万円であった(1万円×3件、2万円×1件)。 市役所收容犬猫の診察・治療を、市役所の依頼を受けて市内動物病院が請け負った場合、医療費の一部をお支払した(1頭につき上限1万円)。今年度は、1件当たり(子猫は1腹当たり)5,000円を動物病院へ支払い、10,000円＝5,000円×2件の医療費支払いとした。 4 市役所の犬収容環境の改善に対する取組 犬の収容場所は、暑さ寒さ対策が万全ではないため、環境課職員と相談しながら改善策を検討した。夏場の収容場所を、生活環境課横の出入りに近い風通しの良い木陰とし、屋外にて犬小屋(倉庫保管中)を設置し、鎖で繋留することとした。咬傷事故を防ぐために、犬小屋の周囲を囲むためのサークル(柵)を購入した。25,478円。 環境改善がスムーズに進まない場合を考慮し、收容期限内7日間を自宅等で預かることのできる市民に、里親サポーターと同じ保護費用助成(1～15日間:2,500円)を行った。ペットサロンにて、中型犬雑種を保護(5/21～5/25)してもらい、2,500円を保護費助成金としてお支払いした。

区分	NO.	応募団体・グループ名称	事業名	事業の内容(計画)		事業実績
				<目的>	<内容>	
	2	取手市動物愛護協議会	犬猫殺処分を無くす講演会	<p>1 動物愛護に関する啓発等の取組 犬猫保護活動を実行している著名人を講師に招き、市民の動物愛護への関心・機運を高め、もって犬猫殺処分ゼロの実現をめざす。</p> <p>2 猫に対する取組 犬猫譲渡会を市内で活動している動物愛護団体が毎月市役所敷地にて開催していますが、8月を目途に本協議会との共催とし会場を地域猫活動相談会を実施し、地域猫の啓発を図り、猫の収容頭数や殺処分の減少に資する。</p>	<p>1 動物愛護に関する啓発等の取組 7月 講演会開催実施検討 9月 講演会開催時の役割分担等具体的な検討 10月 講演会開催</p> <p>2 猫に対する取組 7月 共催譲渡会開催のための検討 9月 共催譲渡会開催(地域猫相談会) 10月 茨城県地域猫推進事業へ応募</p>	<p>1 動物愛護に関する啓発等の取組 「動物たちの未来に向けて～今、私たちができること～」講師 浅田 美代子氏 犬猫の保護活動を実践している女優の浅田美代子氏を講師に招き講演会を開催しました。 当日は市長、取手市PR大使のさくらまや氏も来場し、一般市民190名の来場がありました。 また、講演会の様子が浅田美代子氏、さくらまや氏のSNSに掲載された事によりメディアでも取り上げられるなど著名人を招いたことによる波及効果もあり、取手市民の動物愛護・福祉への関心や意欲の向上に寄与しました。</p> <p>2 猫に対する取組 「野良猫の被害で困っている」「野良猫にエサをあげたい」等の悩みを抱える市民を対象に地域猫相談会を開催しました。 市広報誌に募集記事を掲載し、2組の相談を実施しました。相談の結果、今後地域の了解のもと、相談者を中心に地域猫活動を開始することとなっています。</p>
	3	つくばみらい市動物愛護協議会	つくばみらい市内における動物愛護意識の醸成及び野良猫対策	<p>1 動物愛護に関する啓発等の取組み つくばみらい市民に向けて、適正飼養に関する正しい知識や動物愛護意識の醸成を図る。</p> <p>2 犬・猫に対する取組 (1) 繁殖制限を確実に実施させるため、市役所が保護した、飼い主不明の迷い犬や親猫が確認できず自活できない子猫が、新しい里親に譲渡若しくは里親サポーターに引き渡された際の手術費用負担を軽減する。 (2) 保護猫の譲渡 市役所が保護した猫について、譲渡を推進する。</p> <p>3 その他の取組 市内で保護された飼い主不明の負傷・衰弱猫を治療してくれた市民への金銭負担軽減。</p>	<p>1 動物愛護に関する啓発等の取組み 市内小中学校を対象に「命の授業」を開催。茨城県の現状、殺処分ゼロを目指す取組等を紹介する。啓発チラシを作成し、市内小中学校や市役所窓口、ボランティア団体の譲渡会等で配布する。</p> <p>2 犬・猫に対する取組 (1) 里親サポーター支援 市役所が保護し、新しい里親に譲渡された犬猫及び、市役所での収容期限を越え里親サポーターに引き渡された犬猫の不妊去勢手術費用の一部を助成(オス5,000円、メス10,000円)する。 (2) 保護猫の譲渡 市役所が保護した猫について、市内のボランティア団体と譲渡会の共催。 ※ただし、保護猫がいる場合に限る。</p> <p>3 その他の取組 市内で保護された飼い主不明の負傷・衰弱猫を治療してくれた市民が、高額医療費を負担した場合に医療費の一部を助成。</p>	<p>1 動物愛護に関する啓発等の取組み 動物愛護啓発クリアファイルを作成し、茨城県の殺処分ゼロを目指す取組の啓発チラシ等と併せて、市内公共施設や、協議会が後援する譲渡会で配布した。</p> <p>2 犬・猫に対する取組 (1) 里親サポーター支援 市役所が保護し、新しい里親に譲渡された犬猫及び、市役所での収容期限を越え里親サポーターに引き渡された犬猫の初期医療費の一部を助成(実費、但し上限10,000円)する。 (2) 保護猫の譲渡 市内ボランティア団体の譲渡会を後援し、市役所が保護した猫の譲渡を推進。 譲渡会情報掲示板を公共施設3箇所に設置 譲渡会開催回数: 10回、譲渡済頭数: 猫9頭</p> <p>3 その他の取組 市内で飼い主不明の猫に繁殖制限を実施する市民に、動物愛護協議会が所有する物品を貸し出し、TNR活動を支援する。 貸出回数: 捕獲網5回、捕獲器10回</p>
	4	阿見町動物愛護協議会	譲渡会事業・地域猫事業・一時預かりボランティア事業	<p>1 動物愛護に関する啓発等の取組 町民に向けて適正飼養に関する正しい知識や動物愛護意識の醸成を図る。</p> <p>2 犬猫に対する取組 (1) 地域猫活動 野良猫による騒音、悪臭などの被害が多いため対策として、地域猫活動を実施している。 (2) 保護犬猫の譲渡 町内で保護した猫について、譲渡を推進する。</p>	<p>1 動物愛護に関する啓発等の取組 町広報、譲渡会、犬のしつけ教室等でのチラシ配布</p> <p>2 犬猫に対する取組 (1) 譲渡会 ・適宜開催とする。(天候や気温・譲渡対象犬猫の頭数により態度を決定する) (2) 会員活動 ・獣医師: 飼い主のいない犬猫の健診・手術への協力等 ・町動物愛護会員: 飼い主のいない犬猫の一時保護等 (3) 地域猫事業 ・飼い主のいない猫の不妊去勢手術費用の助成 ・県の補助事業活用 (4) 一時預かりボランティア事業 ・一時預かり費用の助成(ミルク、えさ、トイレ用砂及びペットシート)</p>	<p>1 動物愛護に関する啓発等の取組 広報あみ9月号に掲示。コロナの影響で譲渡会は行わなかった。</p> <p>2 犬猫に対する取組 会員活動 ○獣医師5名: 飼い主のいない犬猫の健診・手術への協力等 ○町動物愛護会員9名: 飼い主のいない犬猫の保護・一時預かり等</p> <p>飼い主のいない犬猫の健診・手術への協力等 犬 検便フィラリア検査件数 5件 犬 寄生虫駆除件数 3件 猫 検便・寄生虫駆除件数 73件 猫 エイズ白血病検査件数 29件 猫 3種混合ワクチン件数 53件 その他 インターフェロン 10件</p> <p>飼い主のいない犬猫保護頭数 ○犬9頭、猫50頭 計59頭 内訳 犬: 譲渡3 返還5 指導セ1 猫: 譲渡40 保護中7 保護中死亡2 指導センター1</p> <p>飼い主のいない猫の不妊去勢手術費用の助成: 猫オス 7件 猫メス 8件 県の補助事業活用: 2地区 40件</p>
	5	常総市動物愛護協議会	犬猫殺処分ゼロ推進活動事業	<p>1 動物愛護に関する啓発等の取組 市民に対し、動物愛護に関する啓発を図る。</p> <p>2 猫に対する取組 (1) 野良猫の不妊去勢手術支援 (2) 保護猫の譲渡 (3) 多頭飼育崩壊・ネグレクトへの指導と援助</p> <p>3 その他の取組 迷い犬の保護</p>	<p>1 動物愛護に関する啓発等の取組 市民に対し、犬猫の適正飼養に関する相談を受け付ける。</p> <p>2 猫に対する取組 (1) 野良猫の不妊去勢手術支援 常総市で市民から猫の保護相談があった場合に、市民にTNR活動を説明し理解してもらったうえで、常総市動物愛護協議会会員が市民と協働しそれ以上繁殖しないようTNR活動を行う。 (2) 保護猫の譲渡 新型コロナウイルスの状況を踏まえ、譲渡会は行わない。 ただし、常総市で市民から猫の保護の相談があった場合には、常総市内の動物愛護団体と連携して里親探しにつなげる。 (3) 多頭飼育崩壊・ネグレクトへの指導と援助 多頭飼育崩壊やネグレクトと思われる飼い主への指導と、必要な場合には清掃や里親探し等の援助を行う。</p> <p>3 その他の取組 ・迷い犬の保護 常総市で市民から犬の保護相談があった場合に、内容を精査したうえで常総市動物愛護協議会会員が保護し、動物愛護協議会の活動費より初期医療(ワクチン・検便・不妊手術)を実施し、その後常総市内の動物愛護団体と連携して里親探しにつなげる。</p>	<p>1 動物愛護に関する啓発等の取組 市民に対し、犬猫の適正飼養に関する相談を受け付け、動物愛護に関する啓発を図った。</p> <p>2 猫に対する取組 (1) 野良猫の不妊去勢手術支援 常総市で市民から猫の保護相談があった場合に、市民にTNR活動を説明し理解してもらったうえで、常総市動物愛護協議会会員が市民と協働しそれ以上繁殖しないようTNR活動を行った。 (2) 保護猫の譲渡 常総市で市民から猫の保護の相談があった場合には、常総市内の動物愛護団体と連携して里親探しにつなげた。 (3) 多頭飼育崩壊・ネグレクトへの指導と援助 多頭飼育崩壊やネグレクトと思われる飼い主への指導と、必要な場合には清掃や里親探し等の援助を行った。</p> <p>3 その他の取組 ・迷い犬の保護 常総市で市民から犬の保護相談があった場合に、内容を精査したうえで常総市動物愛護協議会会員が保護し、動物愛護協議会の活動費より初期医療(ワクチン・検便・不妊手術)を実施し、その後常総市内の動物愛護団体と連携して里親探しにつなげた。</p>